

富山市定例市長記者会見（令和2年8月3日）

■冒頭

市長

いよいよ8月に入りました。今日ご報告するものは1件だけですが、その前に、ここにあります飛沫防止用特殊アクリルパネルについてお伝えしたいと思います。今日はマスクをはずしてお話させてください。この度、三菱ケミカル株式会社富山事業所様より、新型コロナウイルス感染症対策のため、飛沫防止用特殊アクリルパネルをご寄附いただきました。このアクリルパネルは、反射防止フィルムを張り合わせた特殊なもので、光がほとんど反射しないようになっています。また、三菱ケミカル株式会社富山事業所で製造されているものです。今後は、市長記者会見等において、使用させていただくこととしています。改めまして、ご寄附を頂きました三菱ケミカル株式会社富山事業所の所長 赤井 一隆様に心から感謝を申し上げます。

次に、私のほうからご報告をしなければなりません。先週の金曜日の午後から4時間ほど、もちろん着帽していましたが、畑仕事をしていました。シルバー人材センターの方に草むしりに来ていただいたので、「皆さん熱中症にならないように」と注意を促しておきながら、その日の夕方から食欲不振になり、夜嘔吐をしまして、土曜日の朝、(その日に)「富山市民 感謝と誓いのつどい」がありましたので、略礼服を着てネクタイを締めて家を出ようとしたのですが、激しい嘔吐をしまして、富山市民病院の管理者に電話したら、すぐに救急センターに来てくださいと言われ、緊急入院になり、点滴治療を受けました。病名は脱水症ということです。

日曜日の昼前には退院させていただきましたけれども、誠に自らの不覚を反省しております。とりわけ8月1日の「感謝と誓いのつどい」は散華された多くの市民の方々、全国の散華された方々を含めて、富山空襲の被災者に対して、心から慰霊を申し上げます市にとって大変大事な行事であり、就任以来、欠かしたことがなかったのですが、不明にも市長の職を退

こうとする最後の機会にこういう形で失礼なことをしてしまったことを深く反省しております。

特に遺族会の方々や不快に思われた方々には、心からお詫び申し上げたいと思いますし、何よりも多くの散華された方に慰霊申し上げるべきところ、お詫びしなければならないことは大変残念に思いますが、この事をこれからの生きていく縁の一つとして、しっかり身の処し方というものを考えながら行動していきたいと。もう決して若くは無いのだということを改めて思い知らされました。まず冒頭、この事についてお詫びとご説明をさせていただきます。

■富山市ガラス美術館及び富山市立図書館本館 開館5周年記念イベントについて

市長

今月 22 日（土）に、TOYAMAキラリ内の富山市ガラス美術館と市立図書館本館が、開館5周年を迎えますことから、平成27年8月の開館以来、これまでお越しいただいた方や関係者の皆様方に感謝の意を込めて、開館5周年記念イベントを実施いたします。

富山市が30年以上にわたり取り組んできました「ガラスの街づくり」の集大成として開館しましたガラス美術館では、これまで、現代ガラスの巨匠デイル・チフリー氏のインスタレーション作品をはじめとして、市が所蔵する国内外の作家による貴重な現代ガラス作品を展示してまいりました。

また、平成29年度には「平山郁夫とシルクロードのガラス展」を、平成30年度には富山ガラスとのコラボレーション作品「ジブリの幻燈楼」を展示した「ジブリの大博覧会」を開催致しましたほか、トリエンナーレ方式による国際公募展「富山ガラス大賞展2018」をスタートさせるなど、幅広い方々に興味を持っていただけるよう様々な企画展などの開催に取り組んでまいりました。

一方、図書館本館では、蔵書の充実はもちろん、ライブラリーコンサート

や絵本作家の講演会など、木のぬくもりと明るく開放感に満ちたTOYAMAキラリの空間を活かした様々なイベントを開催してまいりました。

その甲斐もあり、ガラス美術館と図書館本館には、開館当初から大勢の市民や観光客にご来館いただいております。開館以来これまで、国内外から2020年7月末現在で約380万人、そのうちガラス美術館には、約94万人の方にお越しいただいております。旧図書館の1年の利用者が年間30万人ぐらいだったことを思い出すと、大変大きな違いがあるなど改めて感じております。

このことは、路面電車環状線化による来街者の利便性の向上や中心市街地の活性化など、これまで本市が行ってきた様々な事業の成果の表れのひとつであるとともに、TOYAMAキラリが、シビックプライドの醸成に大きな効果をもたらしているとも考えております。

そこで、5周年の節目として今回実施する主な記念イベントといたしましては、まず、8月22日（土）を「ガラス美術館5周年記念無料開放デー」として、常設展と開催中の2つの企画展を無料開放いたします。

翌23日（日）には、本市の政策参与であり、TOYAMAキラリの設計を手掛け、新国立競技場や高輪ゲートウェイ駅等の設計者としても有名な、建築家の隈研吾さんの特別講演会をTOYAMAキラリ9階キラリホールで開催します。

また、隈研吾さんの設計事務所在職中に、設計監理担当としてキラリ建設に携わり、その後、独立されて、富山市内に設計事務所を構えられた、齋田武亨（さいたたけゆき）さんによる「図書館バックヤードツアー」を開催するほか、ガラス美術館のギャラリーでは、これまでの企画展のポスターやチラシ、図録などを一堂に紹介する展示会を開催します。

改めまして、これまで来館された方々をはじめ、この5年間、美術館・図書館の運営にご尽力いただいた関係者等、多くの皆様に心から感謝を申し上げますとともに、これからも、市民の知的創造活動の拠点として、また、まちなかの賑わい創出を担う施設として、より多くの市民に親しまれ、末永く

利用される美術館・図書館を目指してまいりたいと考えております。

■ 質疑応答

記者

このあとお盆を中心に、都道府県をまたぐ人の行き来が多くなると予想され、感染リスクも高まることが懸念されます。「第2波」への備え、特に病院や介護福祉施設等でのクラスター対策について どのようなことが必要か、改めて市長のお考えをお聞かせください。

市長

東京都、大阪、沖縄、名古屋などで、大変多くの感染が始まっています。その中で、政府は「GO TO トラベル事業」ということで、積極的に旅行しましょうというようなキャンペーンも行われていて、感染防止と経済の支えという難しい舵取りの中で、東京だけが除外されていて、東京から人は来てほしくないとか、東京へは行きたくないという状況があるのが全国の状況、ムードだと思います。

そういう中で、富山市内においては、5月19日以降、新規感染者ゼロの状況がしばらく続いておりましたが、先月（7月）18日に関東方面へ旅行歴がある方の感染が確認されました。この際、関東方面と言っているのは、やはり発表の仕方として、一定の守らなければならないことがありますので、適当な範囲で発表していくことが必要だと。この場を借りて、そういう配慮をしているということを理解していただきたいと思います。幸い、この患者さんは、日頃から十分に注意を払いながら生活しておられ、旅行から帰宅後も外出等を控え、体調の異変を感じてからは、自ら経過観察のうえ帰国者・接触者相談センターへ連絡されるなど、適切な対応を取られたことから、感染拡大に繋がることはありませんでした。

しかしながら、その後も市内・県内において、感染者が見られるようになってまいりました。市としては、感染の拡大防止には、感染経路や濃厚接触者の把握が最も重要であり、そのためには、患者さんとの信頼関係を

築くことこそが、最も大事であると考えております。（このことは）最初から申し上げていることです。

皆さんは、カミュの「ペスト」を読まれたことはありますか。あの時代は都市国家であり、城壁で覆われていた時代ですので、街にペストが発生したら、最終的にロックダウンどころか、城壁で市民を一步も外へ出さず、他の都市への感染を防ぐという措置をとれたわけです。それがいいかどうかは別として、いわゆる（現代の）ロックダウンというのがヨーロッパやアメリカであっても、今の時代に、人ひとり、犬一匹外に出さないということはできないわけです。ましてや日本において、人の行動を制限するということは、法的な根拠がないのでできないわけですから、大事なことは感染の経路をしっかりと追いかけるようにしていくことなのです。誰かが濃厚接触したけれども、そのことが報告されないとか、保健所とか医療機関に知らされないということを作らないこと、埋没した感染ルートというものを作らないことが大事であると思っています。そのためには、少し時間がかかっても、陽性反応が出た方と保健所や医療機関との信頼関係を作ることが一番大事だと思っています。（市長の）考えは、というご質問ですので、私の究極的な考えはこれに尽きると思います。陽性反応が出た方に、担当者は優しく、やわらかく、信頼を形成できるように努めていくことが大事です。「何であなたそういうところに行っただですか」というような発言をしてはいけないと思っているので、そこはすごく大事だと思っています。

いずれにしても予防ワクチンが開発されるまでは、感染防止対策と社会経済活動の両立をどうやって行くのかということは、どの自治体にとっても大変悩ましいことですが、やはりそのことをしっかり意識していくことが大事だと思っています。幸い今のところ、飲食店街やライブハウスなどから、新たなクラスターなどは、富山で出ていませんので、やはり関係者の皆さん、市民の皆さん一人ひとりが自らを律して、感染予防に努めていただくとともに、お店の経営者やその他の関係者の方も場所の設定や装置、ツールというものを精一杯使って、感染が拡大しないように努めていただくことが大事だと思っています。

そういう中で、これからお盆を迎えます。当然、実家に帰りたい、お墓

参りもしたいということだろうと思いますし、そのことを今日の新聞などには「慎重に」という活字が躍っていましたが、日本の文化としてお盆にお墓参りをするとか、実家に帰るといふのは守るべき文化だと思いますので、十分に注意をしながら、家族との対面ということも対応していただきたいと思っています。とりわけ介護施設等に入っていらっしゃる方を訪ねたいとか、いろいろなことが起きると思います。私の母親も老健施設に入っていますが、今は原則面会できません。市内の介護施設は、非常にきちんと対応をなさっています。手指の消毒をただけでは面会できないので、車いすで動ける方の場合は、入り口まで呼んで来て、ビニールのシート越しに会話だけさせてくれるということです。介護保険施設や障害者福祉施設等の関係者の方には、これからも十分な注意をしていただきたいと思っています。

このことから、本市では、第1波の経験を踏まえ、6月5日に本市保健所から市内の社会福祉施設等へ新型コロナウイルスの感染拡大防止対策について、改めて、

① 職員の健康管理（毎日職員の健康状況を確認し、感染が疑われる症状が出現した場合は、勤務を休ませるとともに、速やかに帰国者・接触者相談センターへ連絡すること。）

② 衛生管理の徹底（施設や備品の消毒、マスクの着用や手指消毒の徹底）

③ 利用者の健康管理（一人でも感染が疑われる症状を探知した際には、速やかに保健所や所管課へ連絡を入れること）

の3つの基本的な対策の再徹底をお願いしたところであります。

感染予防対策は、こうした基本的な対策を徹底することに尽きます。各施設等におかれましては、看護・介護に携わるスタッフの方々に再確認いただくとともに、これまで以上に注意を払いながら、運営していただきますようお願いするものであります。

なお、あえて申し添えますが、4月から5月半ばにかけての第1波の際には、市内でもクラスターが発生しました。このような介護老人保健施設などの状況でありましたけれども、（クラスターが発生した）一部の施設を除いて、高齢者や障害者の介護や福祉関係事業所においては、職員から

利用者、職員間、利用者から職員への感染は、1件も発生しておらず、これは日頃からインフルエンザや食中毒等の感染予防対策が徹底されていたからこそと考えており、介護等に従事頂いております方々に改めて感謝申し上げます。

現在、国からは、感染の新たな流行に備えた備蓄用品として、防護服やマスク、フェイスシールド、手袋等が順次配送されてきており、市としましても、9月の補正予算において、必要な備蓄用品等について、議会にお諮りすることとしており、今後とも、関係機関や施設・事業者等と連携、協力しながら、福祉施設等での感染やクラスターの発生防止に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

他方、これは問題なことだと思っておりますが、国による緊急事態宣言の間、医療受診や介護サービスの利用を控えようとした方も多く、現在も、少なからずこうした状況が続いているように思っております。

そのことによって、既往の病状が重篤化するという、また別な意味での問題があるだろうと思えます。高齢者等の心身の機能低下等に繋がることを懸念しており、今後、市としては、感染やクラスターの防止対策を講じると同時に、市民にとって必要な医療・介護サービスの提供や介護予防等について、コロナ禍にあっても対応できるよう見直すことなどにも注力していかなければならないと考えております。

なお、市民病院においては、感染のリスクを極力抑えるため、出入口の制限やマスクの着用、検温と問診の実施、まず入口に入るところでその作業が行われます。これを経たとしても、入院患者への面会については、原則禁止となっています。こういったことをもって、ウイルスが病院内に入りにくい体制づくりに取り組んでいます。

しかしながら、様々な対策を講じたとしても、目に見えないウイルスの侵入を完全に防ぐことは非常に困難であることから、院内においては、手指衛生などの標準予防策を中心とした感染予防策を全職員が徹底するなど、感染者が院内に入っても、院内で感染の拡大を起こさない体制づくりにも取り組んでいます。

こうした取り組みを積み重ねることにより、仮に感染の第2波が起こったとしても、市民病院において二度とクラスターを発生させることなく、医療を通じて市民の生命を守るため、市保健所や県、医師会など関係機関との情報共有に努めながら、感染症指定医療機関として、また、地域医療支援病院として、その役割をしっかりと果たしていくことが重要であると考えます。

先ほど、カミュの「ペスト」の話をしました。あの小説の最後は、たっくんの方が城内の都市の中で死んで最終的には収束するのですが、最後の言葉は「必ず再発する」ということなんです。感染症は、完全に無くすということはやはり難しい、という前提で、一人ひとりが自らの感染防止策をとることが大事なのだと思います。

酒井福祉保健部長

最近の状況についてお話ししますと、先程、市長からもありましたように5月18日を最後に感染者の発生は見られませんでした。7月18日に新たな感染者が発生して以来、この後、県から報告があるかと思いますが、本日も富山市内から1件発生しています。これについては明日報告するかと思いますが、市内では8件の感染を確認しています。

初めの頃の3人までは首都圏や中京圏由来というものが考えられる感染でありましたけれども、最近濃厚接触者の方1人を除きまして最近の3人の方、本日判明の方も今のところ経路不明ですけれども、感染経路不明の孤発事例となっております。まだ市中感染という状況ではないかと思いますが、いろんな人の往来がありますので、ウイルスがすぐ傍まで来ているという認識を改めて持ってもらいたい。改めて申しますが、感染のリスクは誰にでもございます。このリスクを軽減することも誰にでも出来ます。それは3つの密を避けることと、特に、会話の際にマスクを着用していただくとか、こまめに手洗い・手指消毒に努めて自分の身体の中にウイルスが入ることを避けることをお願いしたい。

また、高齢化が進展しておりますけれども、本市においては3世代・4世代同居の方も多くいらっしゃいます。お盆を控えて帰省される方、市長と同じように私も大事なことでございますけれども、是非、重症化リスク

の高い高齢者の方に配慮をいただくよう、特に若い方々については自ら感染しないよう感染予防について更なる徹底をお願いしたい。ご自身、ご家族等に心配や不安なことがございましたら、まずはできるだけ人との接触を控えたうえで保健所に相談していただくよう、よろしく申し上げます。

記者

富山市は海洋ごみ対策の全国の自治体モデルとして網場の設置を進めておられますが、去年の調査を踏まえた今年の本格設置の狙いをお聞かせください。

市長

平成 31 年 3 月に日本財団と富山市との間で、海洋ごみ対策に係る連携協力協定を締結しました。この協定の中では「調査・分析」、「教育・啓発」、「行動・実施」の 3 つの活動を柱に、事業を実施していくこととなっております。

その中でも、「調査・分析」に関しましては、昨年 12 月に、市内の 5 か所、がめ川、宮地川、広田用水、浄土川、千俵用水で 5 日間、網場の試験設置を行いました結果、回収したごみの総重量は 37 kg となっており、このうち、草木類が約 30 kg、(その他は、)プラスチックごみ類、これは、弁当容器やレジ袋、ペットボトルが大半ですが、約 5 kg でありました。どうしても重量で比較することになるので、大きな木が引っかかるとそちらの比重が大きくなっていくこととなります。また、河川流量の増減に比例してごみの量が増減したということに加え、降雨によって陸域からのごみが、排水溝等を通じて河川に流れ出るというメカニズムの一端についても推察することができました。

昨年度は、設置期間が短く、河川流量の少ない時期の調査でありましたことから、今年度は、流量の多い時期、8 月～9 月の 2 か月間に市内の 3 か所、がめ川、広田用水、千俵用水で網場を本格設置したうえで、その効果や影響など運用上の課題などを詳細に洗い出す必要があると考えております。

(質問の中で)本格設置とおっしゃいましたが、そういう認識ではなく、まだ調査段階であるということです。

また、網場の設置予定の近隣住民を対象に、プラスチックごみの発生抑制対策などについて意識調査を実施するとともに、網場のごみの回収方法や網場の維持管理など、来年度以降の運用のあり方について検討を行うことを考えております。

この事業を発表した時にも申し上げましたが、富山市が神通川から海に出るごみを抑制するなどということは、（富山市の）力を越えた課題になります。それぞれのステークホルダーがあり、国はこういうことをする、県はこういうことをする、事業所自らの行動として管理してもらい、そういう中で市ができることはやはり農業用水等から河川に出る、その接点で幅員の狭い農業用水等に上（流）から流れてくるプラスチックなどを網場で止める。それを（土地改良区で）回収、管理していただいて、溜まったものは市が回収するというかたちが最終的なかたちだと思っています。あとはすべての農業用水に設置するのは時間がかかりますから、こういった実験を重ねながら、どういう時期に、どの路線で、どうするか、最適化というものを探っていきたいと思っています。将来的にはすべての土地改良区に協力していただいて、土地改良区の出口でいつもやっていただくということができれば、基礎自治体としてはなかなか良い先例になると思っています。その際には、補助金を出す等、いろいろ考えていかなければいけないと思っています。

記者

県知事選に関して、北日本新聞と北日本放送で世論調査をおこなったのですが、その結果、現職がリードしていたのですが、富山市は中でも拮抗していました。その結果について所見をお聞かせください。

市長

世論調査したのだから、それが富山市民の世論でしょう。

記者

現職の石井知事が告示前に異例の自民県連の街宣車に乗って演説もされましたけれども、その様な現職の動きについて所見をお聞かせください。

市長

確か 51 年間、知事選について 2 つ以上の選択肢の中で激しい選挙戦はなかったわけです。隣の石川県なんて今の知事が 7 期で、その前の中西知事は 8 期ですから、北陸特有の風土というか自民党の強い政治構造が背景にあったかと思います。

しかしそれは県民にとって、きちんとした論争や政策提示がなされない中で、あるいは関心が無い中で（選挙が）行われてきて、特に富山県知事選は選挙するごとに投票率が下がっているという現状です。そういう中で新田さんがあえて厳しい状況の中で、こういう状況を打破しようと、最終的な結果はともかくとして、51 年も政策論争がない政治風土を変えていかなければならないという強い思いで、勇気を持って手を挙げられたことは大変尊敬しなければならないし、尊重しなければならないと私は思っています。そのことを受けられて石井知事は、やっぱり激しい選挙になるだろうと感じられているから、きっと告示前に街宣活動などをなさったのだろうと思います。中沖知事の時代にはそういうことが全くなかったわけで、今回はそういうことにはならないということを実職の石井知事が感じていらっしゃる。これは県民にしてみれば実に良い事です。そうやって主張を戦わせることが目の前に出てくるということは、今のところ大変良い状況だと受け止めます。

記者

前回の記者会見時に、これから新田さんの演説もあるということで、実際、何度か集会に参加されていると思いますが、県民や市民の反応についてお聞かせください。

市長

昨日も行きました。私は街頭演説をしたわけではないので、どなたかがお世話されて、ある集会の場に、60 人、70 人、100 人集めていらっしゃる場でお話をしていますので、声をかけた方が趣旨を述べて集まっていられっしゃるわけで、現在の県政に批判的な関心をお持ちか、あるいは変化が欲しいと思っていられっしゃるか、新田さんの人柄が見たいと思っていられっしゃるか、新田さんを強く支持しているか、そういう属性の方々ですから、そこでお話すれば反応は大変良いわけです。だからといってそれが世論調

査の中にある拮抗しているという状況を表しているとは思ってないので。当然支持しようと思っっている方が来ている場ですから。

しかし大事なことは、その方々の心を動かして、周りにいる方に伝えたことを伝播していってもらうことが、集会における弁士である私の役割だと思うので、心を込めて話をしていますし、これからの富山県のあり方、私の考えである富山県のあり方、県と市町村のあり方について細かく説明をしながら理解を広めていきたいと思っています。

しかし、現職の壁は強いと思っています。もう1つ言いますと、自民党県連の推薦のあり方について言うと、最初から新田さんだけが推薦されるということは有り得ないと思っっていましたので、考えられるのは現職を推薦するか、2人とも推薦しないかしかなかったわけですから、極めて妥当な結論だと思っっています。選考のあり方云々の議論はありますが、それはそこに入る当事者ではありませんから発言はしません。

記者

県知事選に関して、新田さんを支持すると公言されていた中川県議が自民党県連から処分をされたという状況ですけども、こういった処分を下されたことと自民党県連に対しての考えをお聞かせください。

市長

それは最初から容易に予想出来たことですし、組織としてはそうせざるを得ないと思っますから予想の範囲の中です。他の組織に対して、あれこれ言う立場ではありませんが、かつて県連内部の一人であった者としてルール等から考えますと、当然だし、そこを何もしないというのではタガが緩むであろうと考えるのが、執行部の当然の判断だろうと思っます。

記者

中川県議は、自民党は懐が広い政党だとおっしゃっていました。それが処分する、しないということではなくて中川県議がそういうふうに言っただけですけども、そのことについて所見をお聞かせください。

市長

懐が広いからあの結果なのではないですか。離党勧告したわけでもない

し、いわゆる党本部の定める処分をしたわけじゃないし、それは出来ませんね。党本部は、県知事選は3期までと言っているのだから、これを党本部に持って行ってこれを処分してもいいですかと言ったらそもそも論がおかしくなってしまう。党本部に上げようのないものなので、県連の中でやらざるを得ない。県連が党籍剥奪とか除名とか出来ません。

記者

市長が感じている今回の処分は思ったより軽いものになったのか。

市長

そうではなくて、まさに予想通りだと。おそらく県連内での常任総務という役職を外すのだろうと。もう一つこれから残るのは県議会自民党会派というものが残ります。これは自民党県連とは関係がない。県議会の自民党会派が、何か動きをするかは別の話です。それから県連が富山支部長たる中川支部長の支部長の資格を県連があれこれ出来るわけではないので、それは支部が支部の総意で決定したもので、これに手を突っ込むほど今の県連は愚かではないと思います。

記者

これだけの処分が出て新田さんの応援に行かれている中川さん、市長からご覧になっての考えをお聞かせください。

市長

僕は自民党員なんです。中川さんも自民党員。私たちは自民党批判しているわけではないのです。本来自民党の党本部が、知事は3期までと言っている党本部の原則を尊重していない県連の姿勢に対して意見を異にしているのです。

実は4年前にもこのような発言をしたわけですよ。よく調べてみますとどこかの報道に残っているかと思います。4年前は、4期目だったから。その時点で議論すべきだったというのが僕の個人的な意見です。この際だから申し上げますが、私の理解では、何故党本部は第一次安倍政権の時にわざわざ綱領を変えて今のルールにしたのか、都道府県知事と政令指定都市の首長選挙は、自民党は3期までしか推薦しない。市町村長や議員は10

期でも 20 期でも何にも触れていない。

それは、私の理解では、市長というのはメイヤー、知事というのはガバナー。メイヤーというのは、市民の代表、ガバナーは統治者という意味です。必ずしも選挙で選ばれなくてもかつての官選知事みたいな、外から来た統治者だってあるわけです。統治者というのは、絶大な権限を持っているわけです。市町村長とは比較にならない絶大な権限を持っているわけです。それが、自民党の見識から見て、3 期までにしよう、ということだと思います。今のリニアのことにしても、静岡県知事の言うことを見ると、（知事の権限で）ほんのちょっとした短い距離なのに工事が止まってしまふ。知事というのはそういう権限を持っているわけで、最初に当選した時の選挙公約で挙げたとして、当時の世論はそうであったとしても、3 期過ぎた時に本当にそれでいいのか、そのときの世論は本当にそうなのか。それは選挙さえ勝てばいいということではなくて、国政との絡みも出てくるわけだから。沖縄の辺野古移転の問題を見れば、やはり知事と国の方向性が違ふと、どうしても停滞してしまふ。それが国益にかなうかということをも国として考えなければならない。

そういう見識に立って自民党は、都道府県知事と政令指定都市の首長選挙は、3 期までだと言っていると僕は理解しています。だから 4 年前も異議を申し上げたし、今も同じ考えで、5 選というのは党の綱領に違反している。やはり党の原則、見識というものを黨員として尊重すべきだというのが私のスタンスです。

中川さんは、県庁の OB として、県庁の組織の風通しが非常に悪い、下から上に物を言えない組織になっているということ、前々から強く憂いていらっしやったので、自分の大切な後輩たちの組織が壊れていくのを目の当たりにするのが辛いと言っていたわけです。それが、新田さんが手を挙げられたことをきっかけに変えていこうと決意されたわけです。その意味において、私も同じく行動できると思っています。最初から私の態度や帰趣は鮮明にしているわけなので、今後もしっかり運動していきたいと思っています。

これは国政・国益に繋がる問題だと思います。全国に、何故、自民党の規約がそうなっているかを強く訴えていきたい。前の京都府知事のように、私はそれに従って 3 期で辞める、と言って辞めた方を、（私が）知っているだけでも何人もいらっしやいます。そこは政治家として大事なスタンス

だと思えます。そもそも僕の場合惜しまれているか分かりませんが、自分の仕舞い方は自分で処していくべきだと思えます。

記者

コロナの関係で市民病院のことを触れられたが、二度とクラスターを発生させないという思いをいただきましたけれども、発熱外来は間もなく完成すると思うが、いつ完成するのかお聞かせください。

病院事業局

プレハブ式の発熱外来は本日から工事に入っており、今週の金曜日から運用が始まることになっています。コロナだけでなく、感染症全般に適用いたします。

記者

昨日大相撲の7月場所が終わりました。今場所の朝乃山の取り組みの感想、来月場所への期待をお聞かせください。

市長

2年前の2月の激励会の時に挨拶をする機会がありまして、朝乃山と高砂親方がいらっしゃるところで、僕がテレビで朝乃山の相撲を観戦すると勝率8割だと言いました。そうしたら、本人と親方が毎日観てくれと。16時半に取り組みがあると仕事で毎日観られない。秘書課の職員に隠れてこっそり観るわけにもいかないから17時半頃にテレビで観られるようになってくれと言ったのを思い出します。本当に順調に出世されて、大関になって17時半以降の取り組みに今場所はなつたわけなので、一番を除いて観ました。観なかった一番は、照ノ富士に負けた取組です。前半の強さは本当に強いと思いました。下半身も安定しているし、慌てずに落ち着いているなと思いました。今日の新聞の談話に、両横綱が休場されたことによる意識があったかなといったコメントがあったので、それが作用しているかもしれないけど、これからはそれを乗り越えるような強靱な精神力をつけていくことが大事です。まだ若いのだから、良い経験を積まれたと思

います。来場所はぜひ、頑張ってもらいたい。大いに期待したいと思いま
す。(私の) 小学校、中学校の後輩だからね、皆で応援しましょう。

※ 発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課